

十字架上の七つのことば

第3回「女よ、見なさい。あなたの子です」

イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「女よ、見なさい。あなたの子です」と言われた。それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」その時から、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。（ヨハネ19:26-27）

1. 背景

主イエスが十字架にかかっておられたとき、母マリアと愛弟子ヨハネがそのそばに立っていました。弟子たちの多くは恐れて逃げてしまいましたが、マリアとヨハネは最後まで主のそばに留まっていました。極限の苦しみの中で主イエスは母と弟子を見つめ、「女よ、見なさい。あなたの子です」「見なさい。あなたの母です」と告げられました。

ここで注目すべき点は、主イエスとヨハネの関係です。ヨハネの母サロメは、福音書のいくつかの箇所に「イエスに仕えた女性たち」として登場します。そしてヨハネ 19:25 に出てくる「イエスの母の姉妹」がサロメであると解釈する伝統があります。もしそうなら、イエスとヨハネは従兄弟ということになります。聖書は明確に断定していませんが、親戚であった可能性が高いと考える学者もいます。

こうした背景を踏まえると、主イエスが母マリアをヨハネに託されたことは、単なる弟子への委ね以上に、血縁と信仰の両面から自然な配慮であったとも理解できるのです。

2. 意味

このことばには二つの大切な意味があります。

① 主イエスの愛は最後まで他者を顧みる

自分の苦しみのただ中にあっても、母マリアの将来を思い、孤独にならないように配慮された姿がここに 있습니다。主イエスの愛は、最期の瞬間に至るまで「自分のこと」ではなく「他者のこと」に向けられていました。

② 新しい家族の誕生

「母」「息子」と呼び交わすことで、血のつながりを超えた新しい家族の関係がここに生まれました。これは教会共同体の始まりを象徴しています。信じる者同士が互いに「神の家族」とされ、愛と支え合いの中に歩むことを示しています。

3. 適用

私たちは信仰によって「神の家族」とされました。血縁関係を超えて、互いに祈り合い、支え合い、重荷を分かち合う共同体として歩むことが求められています。また、主イエスが最期まで他者を顧みられたように、私たちも自分のことで精一杯なときにこそ、周りの誰かの必要に目を留められるよう祈りたいものです。そこに主イエスの愛が再現されます。

4. 祈り

「イエス様、あなたが十字架の上で母と弟子を結び合わせ、新しい家族を形づくられたことを感謝いたします。私たちもまた、血縁を超えて与えられた信仰の家族を大切に、互いに支え合うことができますように。どうか私たちの心を広げて、苦しみや弱さを抱える方々に目を留め、愛をもって仕える者としてください。」